

京都看護助産学校



副学校長
前中 由美
(2023年3月31日まで)



副学校長
上南 雪野
(2023年4月1日から)



看護学科 教育主事
森重 真弓
(2023年3月31日まで)



看護学科 教育主事
岡島 優子



看護学科 教育主事
井下 美恵
(2023年4月1日から)



助産学科 教育主事
佐藤 美春
(2023年3月31日まで)



助産学科 教育主事
伊藤 美栄
(2023年4月1日から)

| 教育理念 |

感じる心、考える力、主体的な行動

人間愛を基盤とし、生命の尊厳と人権の尊重ができる感性豊かな人間性を育てることに主眼をおき、看護専門職として必要な基礎的知識、技術、態度を習得し、保健医療福祉の変化に対応できる人材を育成する。

| 教育目的 |

看護師若しくは助産師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構及び社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

| 教育目標 |

－看護学科－

1. 生命の尊厳と個々の権利を擁護し、倫理に基づいて行動できる基礎的能力を養う。
2. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された存在（生活者）として幅広く理解できる能力を養う。

3. 看護の対象との人間関係を形成するためのコミュニケーション能力を養う。
4. 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。
5. 健康の保持、増進、疾病の予防および健康の回復に関わる看護やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。
6. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割および他職種の役割を理解し、多職種との連携・協働する基礎的能力を養う。
7. 看護専門職としての責務を自覚し、主体的に看護を探究し続ける能力を養う。

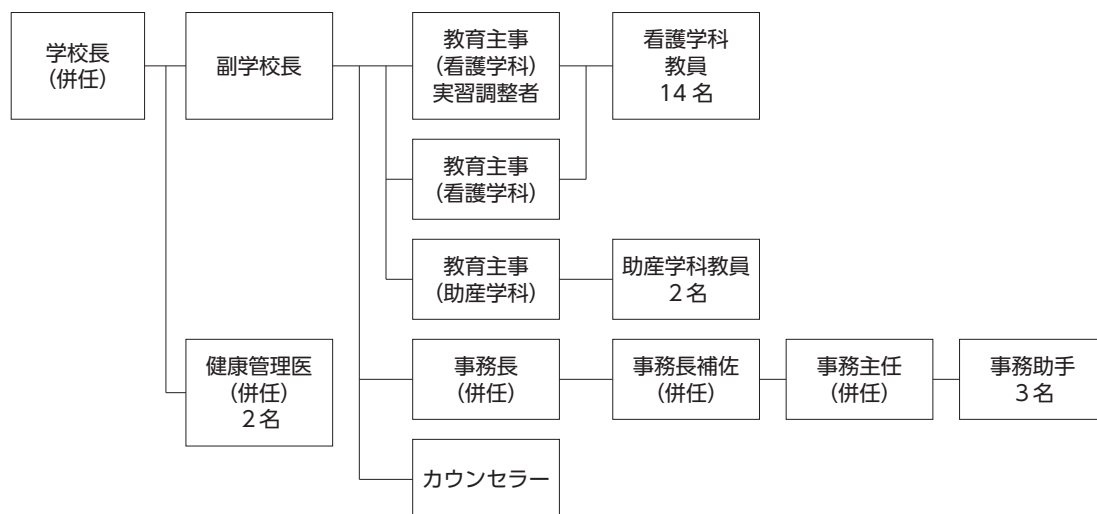
－助産学科－

1. 助産師の役割と責任を自覚し、女性と子ども及び家族の尊厳と権利を尊重する倫理及び専門職業人として自律できる能力を養う。
2. 妊産褥婦と胎児・新生児・乳幼児およびその家族の健康水準を診断し、妊娠・分娩・産褥がより健康・安全に経過し、育児を主体的に行えるよう、根拠に基づき継続的に支援する能力を養う。
3. 性と生殖をめぐる健康に関する課題に焦点をあて、継続的に支援する能力を養う。
4. 安心して子供を産み育てるために、多職種と連携・協働しながら、個人及び社会にとって必要な地域の社会資源の活用や調整を行う能力を養う。
5. 多様化する社会のニーズと、高度化する医療に対応できるよう、常に自己研鑽し続ける姿勢を養う。

| 課程・定員 |

課 程	学 科	入学定員	総 定 員	在籍者数 (令和 5 年 5 月 1 日)			
				1 年 生	2 年 生	3 年 生	合 計
看護専門課程	看護学科 (3年課程)	80人	240人	80人	84人	85人	249人
看護専門課程	助産学科 (1年課程)	18人	18人	18人	—	—	18人
計		98人	258人	98人	84人	85人	267人

| 本校の組織 (令和 5 年度) |



令和4年度 部門目標

部門目標	重点目標	主な取り組み
1 地域社会のニーズ・学生のニーズに応じた質の高い看護教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムの周知、教育目標達成に向けて講師・実習施設との調整 ・学生の臨床判断能力・看護実践能力の向上を目指した教育の充実 ・現行カリキュラムと新カリキュラムでの学生の科目到達度の評価 ・教員の教育実践能力の向上 ・実習指導の充実に向けた臨床との連携強化 	<p>【看護学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度改正カリキュラムの承認が得られ周知及び運用開始。講師会議及び看護師長対象学習会開催 ・実習指導者会議を11回/年実施し、効果的な指導方法を検討し指導案の作成 ・実習指導者講習未受講者を対象に7月、9月に実習指導者研修会を対面及びリモートで実施 <p>【助産学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護技術のピアチェックを導入 ・実習指導者会議を5回/年開催し、意見交換や専任実習指導教員との連携を図りが学生の実習指導に反映 ・国立病院機構病院附属の助産学科3校の教材共有等合同教育の充実（研究授業の実施）
2 将来看護師・助産師として国立病院機構及び地域に貢献できる優秀な人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な学生募集活動 ・高い国家試験合格率の維持に向けた学習支援（全国合格率以上） ・国立病院機構および京都府内への就職者の確保（70%以上） ・学校の運営方針について、関係者との情報交換 	<p>【看護学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校訪問74校（前年度68校） ・高校への願書の郵送355校（昨年358校） ・進路説明会参加17回、参加者110名（昨年10回、参加者71名） ・ホームページのリニューアル ・看護学科オープンキャンパス：7回実施（来校型とオンライン型を同時開催）参加者193名（3月13日現在）昨年137名/年間 ・高校教諭対象のオープンキャンパスを再開（参加校11校、参加者13名）平日夜間に追加開催 ・公開講座：テーマ「自然災害への備え～災害時でも健康の維持ができるようにしよう～」2回実施 <p>【助産学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス開催（3回）オンライン型にて開催 ・公開講座の開催（2回） 中高生への性教育「赤ちゃん講座」：18人 対面で実施 出産前教室「ファミリー教室」7人対面で実施
3 学生が主体的に学ぶ教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・看護技術練習やグループワーク活動の支援、学生の学習の保障 ・学生生活のサポート体制の充実（学習支援、個別面談、カウンセリング等） ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術習得に向け学習時間と指導教員の確保 ・奨学金による支援：大学等における修学新制度の運用（入学金減免、授業料減免）、各種奨学金による支援（日本学生支援機構、NHO施設、京都府看護師等養成資金） ・物価高に対する経済対策支援事業を活用した資金の交付 ・遠隔授業と対面授業を効果的に活用 ・臨地実習の一部を学内実習へ変更 ・学校における感染予防の周知徹底 ・学校職員や学生にコロナウイルス抗原キットを配布
4 職員が働きやすい職場環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の業務調整・相互協力による“チーム学校”としての組織の活性化 ・勤務時間管理の徹底と自己管理（セルフマネージメント） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「業務改善チャレンジシート」による事務業務の整理とタスクシフト ・変則勤務の割り当てや業務計画表を用いた調整 ・ICTを活用した速やかな学生への伝達、課題管理により、超過勤務時間数の減少 ・研究日の集中取得

| 応募・入学状況 |

看護学科

年度 (回生)	試 験	応募者数	受験者数	合格者数	補欠 合格者数	合格者 からの 入学者数	補欠者 からの 入学者数	入学者数	退学者数	原級 留置者 (在籍者)	3年以上 在籍した 卒業生数	卒業生数 (3年)
2019年 (第18回生)	推薦(学校)	19	19	19	0	19	0	19				19
	推薦(公募)	17	17	15	0	15	0	15				15
	社会人	18 (2)	18 (2)	12 (1)	0	12 (1)	0	12 (1)	1			11 (1)
	一 般	80 (7)	76 (7)	58 (2)	3 (2)	39 (2)	0	39 (1)	2 (1)			37 (1)
	合 計	134	130	104	3	85	0	85 (2)	3 (1)	0	0	82 (2)
2020年 (第19回生)	推薦(学校)	11	11	11	0	11	0	11		1		
	推薦(公募)	15 (1)	15 (1)	13 (1)	0	13 (1)	0	13 (1)				
	社会人	16 (2)	16 (2)	12 (1)	0	10 (1)	0	10 (1)				
	一 般	66 (3)	61 (3)	53 (2)	0	26 (1)	2 (1)	28 (2)	2			
	一 般 (2回目)	14 (2)	13 (2)	13 (2)	0	13 (2)	0	13 (2)	1			
	合 計	122 (8)	116 (8)	102 (6)	0	73 (5)	2 (1)	75 (6)	3	1	0	
2021年 (第20回生)	推薦(学校)	41 (2)	41 (2)	41 (2)	0	41 (2)	0	41 (2)	1			
	推薦(公募)	27 (3)	27 (3)	21 (1)	0	21 (1)	0	21 (1)				
	社会人	11	10	6	0	6	0	6		1		
	一 般	55 (3)	51 (3)	32 (1)	5	19 (1)	0	19 (1)	1			
	一 般 (追試験)		2	1	0	0	0	0				
	合 計	134 (8)	131 (8)	101 (4)	5	87 (4)	0	87 (4)	2	1	0	
2022年 (第21回生)	推薦(学校)	30 (2)	30 (2)	29 (1)	0	29 (1)	0	29 (1)				
	推薦(公募)	27 (1)	27 (1)	23 (1)	0	23 (1)	0	23 (1)				
	社会人	13 (1)	13 (1)	6 (0)	0	5 (0)	0	5 (0)				
	一 般	45 (5)	41 (5)	39 (3)	0	29 (3)	0	29 (3)				
	合 計	115 (9)	111 (9)	97 (5)	0	86 (5)	0	86 (5)	0	0	0	

年度 (回生)	試 験	応募者数	受験者数	合格者数	補欠 合格者数	合格者 からの 入学者数	補欠者 からの 入学者数	入学者数	退学者数	原級 留置者 (在籍者)	3年以上 在籍した 卒業生数	卒業生数 (3年)
2023年 (第22回生)	推薦(学校)	26 (2)	26 (2)	26 (2)	0	26 (2)	0	26 (2)				
	推薦(公募)	21 (0)	21 (0)	19 (0)	0	19 (0)	0	19 (0)				
	社会人	8 (1)	8 (1)	6 (1)	0	6 (1)	0	6 (1)				
	一 般	47 (1)	43 (1)	41 (1)	0	26 (1)	0 (1)	26 (1)				
	一 般 (第2回)	5 (1)	5 (1)	1 (1)	0	1 (1)	0	1 (1)				
	合 計	107 (5)	103 (5)	93 (5)	0	78 (5)	0 ()	78 (5)	0	0	0	

() 男性再掲

助産学科

年度 (回生)	試 験	応募者数	受験者数	合格者数	補欠 合格者数	合格者 からの 入学者数	補欠者 からの 入学者数	入学者数	退学者数	卒業生数
2019年度 (第51回生)	特別選抜(学校)	14	14	9	0	9	0	9	0	9
	特別選抜(施設)	2	2	1	0	1	0	1	0	1
	一 般	45	35	8	3	8	0	8	0	8
	合 計	61	51	18	3	18	0	18	0	18
2020年 (第52回生)	特別選抜(学校)	16	16	12	0	12		12	0	12
	特別選抜(施設)	0	0	0	0	0		0	0	0
	一 般	40	35	6	2	4	2	6	0	6
	合 計	56	51	18	2	16	2	18	0	18
2021年 (第53回生)	特別選抜(学校)	12	12	10	0	10		10	0	10
	特別選抜(施設)	0	0	0	0	0		0	0	0
	一 般	46	38	8	3	7	1	8	0	8
	合 計	58	50	18	3	17	1	18	0	18
2022年 (第54回生)	特別選抜(学校)	18	18	12	0	12		12		12
	特別選抜(施設)	3	3	1	0	1		1		1
	一 般	37	28	5	3	5	0	5		5
	合 計	58	49	18	3	18	0	18	0	18
2023年度 (第55回生)	特別選抜(学校)	15	15	13	0	13		13		
	特別選抜(施設)	2	2	1	0	1		1		
	一 般	28	24	4	4	1	3	4		
	合 計	45	41	18	4	15	2	18		

| 卒業生の進路 |

看護学科

2023年5月1日現在

年度	回生	卒業生数	就職							進学				未就職
			国立病院機構		NC	官公立	法人	その他	看護職以外	保健師	助産師	養護教諭	大学	
			自施設	他施設										
2018年度	第15回生	73	22	29	7	4	3	0	0	0	4	0	1	3
2019年度	第16回生	88	30	25	3	9	8	0	0	0	8	0	1	4
2020年度	第17回生	74	36	26	2	3	0	0	0	0	4	0	2	1
2021年度	第18回生	83	39	32	1	1	2	0	0	2	5	0	0	1
2022年度	第19回生	71	32	23	1	7	0	0	0	1	5	0	0	2

年度	府内 府外	卒業生数	府内 就職者数	(再掲)		府外 就職者数	進学者	その他
				北部就職者	実習就職者			
2018年度	府内出身者	51	35	1	31	12	3	1
	府外出身者	22	7	0	7	11	2	2
2019年度	府内出身者	53	34	0	32	12	4	3
	府外出身者	35	12	0	12	17	5	1
2020年度	府内出身者	47	35	0	34	10	2	0
	府外出身者	27	15	1	14	7	4	1
2021年度	府内出身者	56	39	0	38	12	5	1
	府外出身者	27	15	0	15	9	2	0
2022年度	府内出身者	46	35	0	34	7	3	1
	府外出身者	25	7	0	16	14	3	1

助産学科

年度	回生	卒業生数	就職							進学	未就職
			国立病院機構		NC	官公立	法人	その他	看護職以外		
			自施設	他施設							
2018年度	第50回生	22	2	7	1	7	5	0	0	0	0
2019年度	第51回生	18	4	5	0	7	2	0	0	0	0
2020年度	第52回生	18	3	11	1	3	0	0	0	0	0
2021年度	第53回生	18	2	9	1	2	3	0	0	0	0
2022年度	第54回生	18	3	10	1	3	1	0	0	0	0

年度	府内 府外	卒業生数	府内 就職者数		(再掲)				府外 就職者数		その他
			助産師	看護師	北部就職者		実習就職者		助産師	看護師	
					助産師	看護師	助産師	看護師			
2018年度	府内出身者	7	6	0	2	0	3	0	1	0	
	府外出身者	15	1	0	0	0	0	0	14	0	
2019年度	府内出身者	6	5	0	1	0	3	0	1	0	
	府外出身者	12	3	0	0	0	2	0	9	0	
2020年度	府内出身者	4	2	1	0	0	2	1	1	0	
	府外出身者	14	2	0	0	0	2	0	11	1	

年 度	府内 府外	卒業生数	府内 就職者数		(再掲)				府外 就職者数		その他
			助産師	看護師	北部就職者		実習就職者		助産師	看護師	
					助産師	看護師	助産師	看護師			
2021年度	府内出身者	2	2	0	0	0	2	0	0	0	
	府外出身者	16	2	0	0	0	1	0	14	0	
2022年度	府内出身者	7	6	0	1	0	4	0	1	0	
	府外出身者	11	0	0	0	0	0	0	11	0	

国家試験合格状況

看護学科

	全国	(%)	機構附属 (%)		
			全国	近畿	本校
108回 (H31.3)	全体 (新卒)	89.3 (94.7)	97.3 (98.1)	99.0	95.9
109回 (R2.3)	全体 (新卒)	89.2 (94.7)	97.3 (98.2)	98.5	96.6
110回 (R3.3)	全体 (新卒)	89.2 (94.7)	90.4 (95.4)	98.3	100
111回 (R4.3)	全体 (新卒)	91.3 (96.5)	98.7 (98.9)	99.4	100
112回 (R5.3)	全体 (新卒)	90.8 (95.5)	97.9 (98.1)	98.7	97.2

助産学科

	全国	(%)	機構附属 (%)	
			全国	本校
102回 (H31.3)	全体 (新卒)	99.6 (99.9)	100	100
103回 (R2.3)	全体 (新卒)	99.4 (99.5)	100	100
104回 (R3.3)	全体 (新卒)	99.6 (99.7)	100	100
105回 (R4.3)	全体 (新卒)	99.4 (99.7)	100	100
106回 (R5.3)	全体 (新卒)	95.6 (95.9)	100	100

入学試験実施状況

看護学科

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入試	令和5年1月19日 (木)	令和5年1月21日 (土)	令和5年1月26日 (木)
社会人入試	令和4年11月10日 (木)	令和4年11月12日 (土)	令和4年11月17日 (木)
公募推薦入試 推薦入試	令和4年11月10日 (木)		令和4年11月17日 (木)

助産学科

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入試	令和5年1月19日 (木)	令和5年1月21日 (土)	令和5年1月26日 (木)
特別選抜入試	令和4年11月10日 (木)		令和4年11月17日 (木)

| 学生募集活動 |

<ガイダンス>

月	日	曜		内容	場所	実績数	担当者
令和4 4	15	金	①	さんぼう主催 京都府立西乙訓高等学校	Web (ZOOM)	3人	榮
	27	水	②	TAP主催 京都府立北稜高等学校	北稜高等学校	2人	大上
5	6	金	③	TAP主催 京都府立京都八幡高等学校 (北キャンパス)	Web (ZOOM)	3人	森重
	11	水	④	TAP主催 京都文教高等学校	Web (ZOOM)	1人	森重
	11	木	⑤	ケーホウ主催 京都府立亀岡高等学校	Web (ZOOM)	14人	森重
	11	水	⑥	ケーホウ主催 京都府立向陽高等学校	Web (ZOOM)	8人	榮
	24	火	⑦	ケーホウ主催 京都府立東陵高等学校	東陵高等学校	9人	大上
	31	火	⑧	ケーホウ主催 京都府立乙訓高等学校	Web (ZOOM)	4人	森重
6	9	木	⑨	さんぼう主催 平安女学院高等学校	平安女学院高等学校	5人	森重
	17	金	⑩	ケーホウ主催 京都府立京都八幡高等学校 (南キャンパス)	Web (ZOOM)	2人	森重
	21	火	⑪	京都府立西城陽高等学校 出張授業「総合的な探求の時間」	西城陽高校	36人	森重
	23	木	⑫	ケーホウ主催 京都府立北嵯峨高等学校	Web (ZOOM)	5人	寺田美
7	1	金	⑬	京都府看護学校協議会主催 (高校教員対象) 高等学校と看護系教育機関との進路研修会	Web (ZOOM)	多数	前中・森重
10	6	木	⑭	京都精華学園高等学校 学校見学	来校	13人	榮・寺田博
令和5 2	15	水	⑮	TAP主催 私立比叡山高等学校	比叡山高等学校	4人	森重
	17	金	⑯	ジー・パートナーズ主催 京都府立東宇治高等学校	東宇治高等学校	4人	太田
	17	金	⑰	ケーホウ主催 京都府立東陵高等学校	東陵高等学校	8人	岡島
3	5	日	⑱	看護職就職・進学合同フェア2023	京都市産業会館 みやこめッセ	14人	岡島・榮
合計						135人	

<高校訪問>

	都道府県別訪問校 (新規再掲)	訪問校数 (指定校再掲)	内容
6月	京都府 23校 (0校) 大阪府 3校 (0校) 滋賀県 0校 (0校) 福井県 0校 (0校)	26校 (19校)	学校説明会 入学試験の説明 看護系進学予定者・主な進路の確認 情報交換
7月	京都府 21校 (0校) 奈良県 1校 (0校) 兵庫県 2校 (0校) 大阪府 2校 (0校) 滋賀県 15校 (0校) 福井県 1校 (0校)	42校 (22校)	学校説明会 入学試験の説明 看護系進学予定者・主な進路の確認 情報交換
延べ訪問高校数 68校 (新規0校)			

<オープンキャンパス>

(1) 高校教員対象

日程	参加人数	内、Web参加数	内容
令和4年5月26日	11名	2名	看護学科 高校教員対象

(2) 応募者対象

学 科	日 程	参加者数	WEB参加者数 (再掲)	内 容
看護学科	令和4年6月11日	28名	1名	入学試験の説明 模擬授業体験 沐浴、採血 看護学生との交流 ※サテライト開催 (18:30~19:30)
	令和4年7月16日	47名	47名	
	令和4年8月21日	49名	49名	
	令和4年9月11日	25名	25名	
	令和4年10月1日	31名	4名	
	令和4年12月15日*	7名 (付添4名)	0名	
	令和5年3月25日	35名 (付添21名)	0名	
計	222名	126名		
助産学科	令和4年7月16日	59名	59名	学校説明 学校生活の紹介 入学試験の説明 助産学生による分娩介助 シミュレーション 助産学生との交流
	令和4年8月21日	66名	66名	
	令和4年9月11日	30名	30名	
	計	155名	155名	

| 研究活動 |

1) 研究活動

<学会発表>

発表年月日	発表学会
2022.09.03	近畿地区国立病院第64回看護学会
演題名等 / 演者 (下線は当院所属) 「基礎看護技術教育における看護学生のピア評価の実態」 ベストポスター賞 大上 寿子、榮 圭子、晝間 梓、花村 一葉	
2022.09.03	近畿地区国立病院第64回看護学会
「コロナ禍における助産学生の入学時の看護基礎技術到達状況と支援」 並崎 直美、柚木 麻央	
2022.09.03	近畿地区国立病院第64回看護学会
「地域・病院・学校のつながりを目指した新たな取り組み～コロナ禍でも守りたい、人と人のつながり～」 柚木 麻央、恵美 徹生、岡島 優子	
2022.10.07	第76回国立病院総合医学会
「シミュレーターを用いた実習前研修における学生の観察力・アセスメント力向上に向けた取り組み」 医療の広場投稿 太田 恵子、山本 緑、花村 一葉、大上 寿子	
2022.10.07	第76回国立病院総合医学会
「ループリックを用いた分娩介助技術評価表の活用と課題」 柚木 麻央、並崎 直美	
2022.10.07	第76回国立病院総合医学会
「臨床判断能力を高めるためのシミュレーション演習による学びの実態」 中村なぎさ、太田 恵子、恵美 徹生	

<京都医療センター成果発表会>

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2023.01.27	ポスター発表
「基礎看護学実習Ⅰにおける学生の実態」 中村なぎさ、寺田 博子、晝間 梓、上田 彩子、岡島 優子、前中 由美	
2023.02.04	口述発表
「助産学生が企画する健康教育講座への看護学生の参画による相互学習の効果」 柚木 麻央、榮 圭子、寺田 美鳥、並崎 直美、佐藤 美春、前中 由美	

<副学校長・教育主事協議会 グループ活動>

グループ	メンバー	活動テーマ	活動成果
1グループ	佐藤 美春 岡島 優子 前中 由美 他	1・2年目看護教員研修	第1回研修：令和4年7月26日、 第2回12月6日授業研究の実施
2グループ	森重 真弓 他	中堅看護教員研修	

<教員研修会 研究グループ活動>

グループ	メンバー	活動テーマ	活動成果
1グループ	中村なぎさ 寺田 博子 晝間 梓 上田 彩子	基礎看護学実習Ⅰにおける学生の学びの実態	京都医療センター成果発表会にて発表
2グループ	太田 恵子 山本 緑 花村 一葉 大上 寿子	基礎看護学実習前研修における学生の観察力・ アセスメント力向上に向けた取り組み	第76回国立病院総合医学会にて発表
3グループ	寺田 美鳥 榮 圭子 遠藤 真理 恵美 徹生	臨床に即した卒業前研修案の作成および実施(案)	
4グループ	柚木 麻央 榮 圭子 寺田 美鳥 並崎 直美	看護学生の助産学科健康教育実習への参画による 学びと相互効果について	京都医療センター成果発表会にて口述 発表予定(2/4)

<研究授業>

月 日	授業者氏名	授業名	内 容	参加教員等
令和4年5月25日	太田 恵子	特別教育活動 (看護技術) 基礎看護学実習Ⅱ 実習前研修	腰椎圧迫骨折患者の排泄の援助	榮、遠藤、寺田美、 恵美、大上、花村、 山本、中村、寺田博、 晝間、上田
令和4年7月21日	遠藤 真理	小児看護援助技術	検査介助演習 (骨髄穿刺・腰椎穿刺・採血・採尿)	山本、花村、恵美、 上田
令和4年9月1日	榮 圭子	看護学概論Ⅱ	意識障害のある患者の看護	恵美、山本、寺田博
令和4年9月1日	寺田 美鳥	成人看護援助技術Ⅲ	術後のアセスメント	恵美、寺田博
令和4年9月14日	寺田 博子	基礎看護技術Ⅲ	洗髪	恵美、大上、上田
令和4年10月19日	山本 緑	老年看護学演習Ⅱ	日常生活動作能力の再獲得、 残存機能を引き出す看護	中村、遠藤
令和4年10月20日	恵美 徹生	成人看護学演習	術後の精神状態のアセスメント	寺田美、太田、山本、 花村、上田、岩本(南 京都病院副看護師長)

月 日	授業者氏名	授業名	内 容	参加教員等
令和4年10月24日	中村なぎさ	基礎看護学実習Ⅰ 実習前研修	多職種の役割について	榮、寺田美、太田、 寺田博、晝間、辻本 (大阪)、松本(姫路)
令和4年11月28日	花村 一葉	領域別実習前研修	事例患者に適した日常生活の援助	榮、太田
令和5年1月12日	上田 彩子	老年看護援助論Ⅰ	おむつ交換、グリセリン浣腸の実際	遠藤、晝間
令和5年1月12日	大上 寿子	基礎看護技術Ⅶ	採血の一連	寺田美、晝間
令和5年1月12日	晝間 梓	情報科学理論	電子カルテの取り扱いについて	中村、遠藤
令和5年1月12日	柚木 麻央	臨床看護推論	妊婦健康診査シミュレーション	佐藤、並崎、違輪
令和5年1月12日	柚木 麻央	臨床看護推論	妊婦健診OSCE	佐藤、並崎、違輪
令和5年1月12日	並崎 直美	臨床看護推論	分娩期臨床推論ロールプレイ	佐藤、違輪

2) 研修

<近畿グループ主催 研修>

月 日	研修名	場 所	参加者
令和4年12月19日	中堅看護教員研修	オンライン	榮、中村、太田、晝間
令和4年12月27日	初期看護教員研修	オンライン	上田、恵美、花村
令和4年7月13日	新任中間監督者研修	オンライン	上田
令和4年11月15日	新任中間監督者研修	オンライン	上田

<副学校長・教育主事協議会>

(1) 中堅看護教員研修

月 日	研修名	場 所	参加者
令和4年9月6日	令和4年度 副学校長・教育主事協議会 中堅看護教員研修	オンライン	寺田博・大上
令和4年10月31日	令和5年度 副学校長・教育主事協議会 中堅看護教員研修	オンライン	寺田博・大上
令和5年2月20日	令和5年度 副学校長・教育主事協議会 中堅看護教員研修	オンライン	寺田博・大上

(2) 1・2年目教員研修

月 日	研修名	場 所	参加者
令和4年7月26日	令和4年度 副学校長・教育主事協議会 1・2年目教員研修	京都医療センター附属 京都看護助産学校	上田、恵美、花村
令和4年12月6日	令和4年度 副学校長・教育主事協議会 1・2年目教員研修	大阪医療センター附属 看護学校	上田、恵美、花村

<学校>

(1) 実務研修

	氏 名	ねらい	場 所	月 日	日数
1	寺田 博子	訪問看護ステーションにおける看護師長の役割を理解し、管理者としての能力を高める	宇多野病院 訪問看護ステーション	12月23日	1
2	山本 緑	訪問看護ステーションにおける看護師長の役割を理解し、管理者としての能力を高める	宇多野病院 訪問看護ステーション	12月27日	1
3	大上 寿子	訪問看護ステーションにおける看護師長の役割を理解し、管理者としての能力を高める	宇多野病院 訪問看護ステーション	12月28日	1

(2) 研修会・学会参加

会期	学会名	場所	参加者
令和4年9月3日	第64回近畿看護学会	大阪	教員全員
令和4年10月7日 8日	第76回国立病院総合医学会	熊本	中村、太田 書間、 並崎

3) 社会への貢献

<公開講座>

	日程	内容	Web参加数
1	令和4年7月16日	自然災害への備え～災害時でも健康維持ができるように備えよう～	6名
2	令和4年8月21日	自然災害への備え～災害時でも健康維持ができるように備えよう～	14名
2	令和4年10月1日	動画視聴 自然災害への備え～災害時でも健康維持ができるように備えよう～	5名 (会場)

<外部講師>

氏名	研修会等主催者	研修会名称	講義等テーマ	日数/時間	備考 (オンライン等)
前中 由美	独立行政法人 国立病院機構 近畿グループ	令和4年度 保健師助産師看護師 実習指導者講習会	実習指導方法論、実習指 導の方法と実習指導者の 役割	1日/3時間	オンライン
森重 真弓	独立行政法人 国立病院機構 近畿グループ	令和4年度 保健師助産師看護師 実習指導者講習会	統合科目、精神看護学	1日/3時間	オンライン
岡島 優子	独立行政法人 国立病院機構 近畿グループ	令和4年度 保健師助産師看護師 実習指導者講習会	成人・老年看護学	1日/3時間	オンライン
太田 恵子	国立病院機構 南京都病院	レベルⅣコース 「キャリアアンカー」研修	それぞれの道のりとやり がい	90分	対面
中村なぎさ	独立行政法人 国立病院機構 近畿グループ	令和4年度 保健師助産師看護師 実習指導者講習会	実習指導方法演習	5日 (10時間)	オンライン
寺田 美鳥	独立行政法人 国立病院機構 近畿グループ	令和4年度 保健師助産師看護師 実習指導者講習会	実習指導方法演習	5日 (10時間)	オンライン
寺田 博子	公益社団法人 京都府看護協会	令和4年度 実習指導者講習会	実習指導方法演習 【演習Ⅱ(成人看護学)】	5日間	対面

<実習指導者研修>

学校主催 実習指導者研修会

日程	研修内容	担当	参加者
令和4年7月29日 13:30~16:30	<集合及びWEB研修> 1. 看護基礎教育の教育課程 2. 学生理解 3. 実習指導者の役割 4. 実習指導案の意義と指導計画	副学校長・教育主事・教員	近畿グループ病院の 次期実習指導者 64名
令和4年9月29日 13:30~16:30	<集合及びWEB研修> 1. 実習指導方法の実際 2. 評価の基礎知識 3. 実習指導者に求められる資質	副学校長・教育主事・教員	近畿グループ病院の 次期実習指導者 62名

<外部委員>

氏名	委員会/委員名	団体名
佐藤 美春	理事会/理事	京都母性衛生学会
並崎 直美	理事会/会計副委員長	京都母性衛生学会
柚木 麻央	理事会/会計委員	京都母性衛生学会
並崎 直美	選挙管理委員	京都府助産師会

<インターンシップ>

	日程/日数	研修内容	所 属
1	10月17日～10月30日/4日間	講義・演習・実習指導見学、行事（戴帽式）	南京都病院
2	10月24日～10月27日/4日間	講義・演習・実習指導見学	東近江総合医療センター
3	11月14日～11月15日/2日間	講義・演習・実習指導見学	宇多野病院

| 令和4年度 学校評価 結果 (看護学科) |

学校評価の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施している。評価表は平成27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂した。

国立病院機構近畿グループ5校の副学校長・教育主事・教員による学校相互評価を実施し、更なる教育の充実を目指している。

学校自己評価 (看護学科) 総評結果

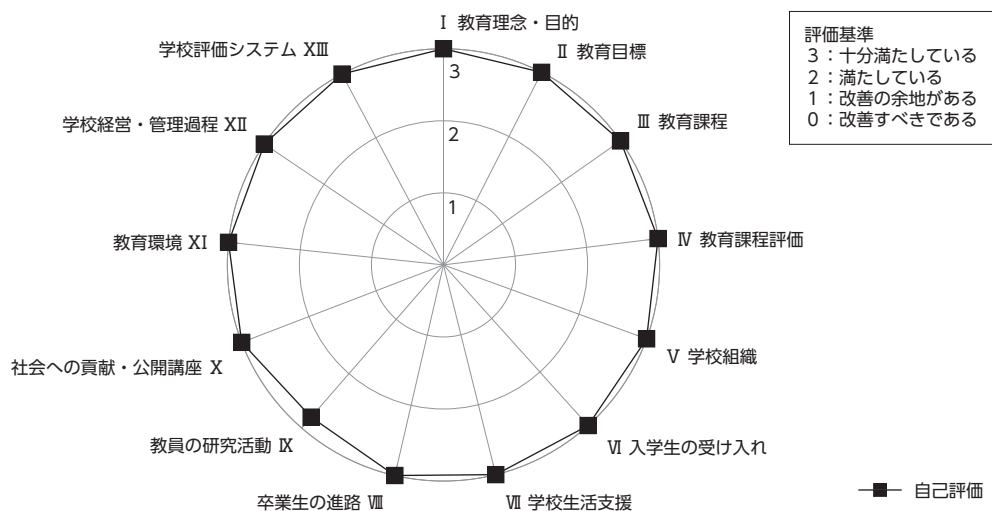
前年度の評価をもとに改善に取り組み、令和4年度の自己点検・自己評価を行った。今年度特に取り組んだ内容は次の3点である。

1. 改正カリキュラムの運用を1学年の学生から開始し、「地域・在宅看護論」及び基礎看護学実習では、地域や多職種との連携について1年次から学修できるようにした。更に今年度は感染予防対策を継続し、対面授業（講義・演習）の時間数を増やした。臨地実習も可能な限り実施できるよう協力を得て、貴重な経験をすることができている。
2. 今年度は指定校推薦の募集枠を増やし、応募者の確保に取り組んでいる。オープンキャンパスは感染拡大状況をみながら来校型とWebで実施した。更に高等学校教諭へのオープンキャンパスも実施し、学生確保対策に取り組んでいる。今年度、夜間のオープンキャンパスを実施し、受験に繋がった。そして入学試験では一般入試の2回目の実施を行い、入学生確保につなげた。
3. 今年度は学会での研究発表を3題実施し、研究活動にも積極的に取り組んでいる。研究日を計画的に確保できるよう調整をしていく。この評価結果を活かし、更に教育が充実できるよう取り組んでいく。

評価項目	評価の視点	項目	R4年度
			自己評価
I 教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているかについて評価します。	6項目	3.0
II 教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒業教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているかについて評価します。	6項目	3.0
III 教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し計画的に進められているかについて評価します。	26項目	3.0

評価項目	評価の視点	項目	R4年度
			自己評価
IV 教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について評価します。	6項目	3.0
V 学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適正であるかと防災対策や個人情報保護について評価します。	9項目	3.0
VI 入学生の受け入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について評価します。	5項目	3.0
VII 学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているかについて評価します。	15項目	3.0
VIII 卒業生の進路	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているかについて評価します。	7項目	3.0
IX 教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について評価します。	4項目	2.8
X 社会への貢献・公開講座	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズをふまえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について評価します。	7項目	3.0
XI 教育環境	施設設備などの学習環境の整備状況について評価します。	7項目	3.0
XII 学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて評価します。	7項目	3.0
XIII 学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について評価します。	5項目	3.0
全体平均			3.0

令和4年度 看護師養成所自己点検・自己評価結果（看護学科）



| 令和4年度 学校評価 結果（助産学科） |

学校評価の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施しています。評価表は平成27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂しました。

令和4年度は国立病院機構近畿グループ5校の副学校長・教育主事・教員による学校相互評価を実施し、更なる教育の充実を目指しています。

学校評価（助産学科）総評結果

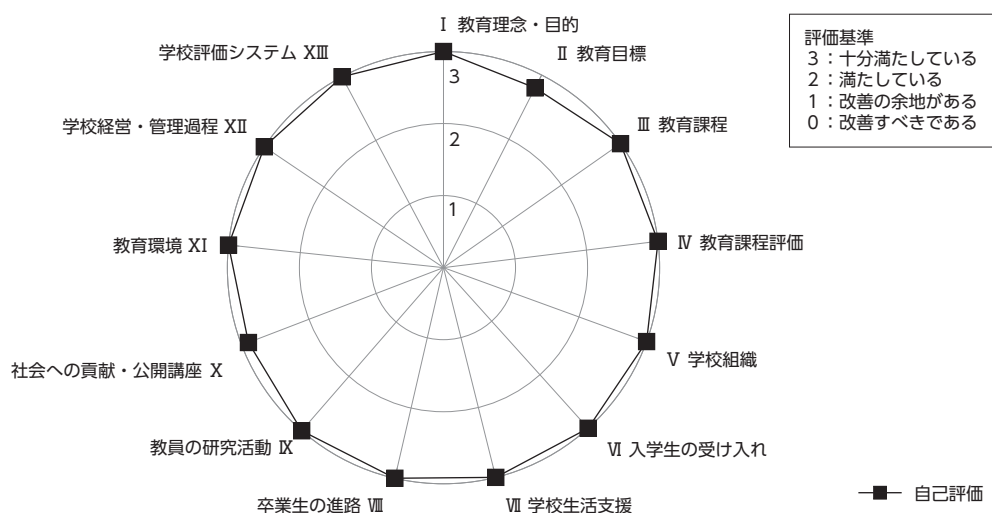
前年度の評価をもとに改善に取り組み、令和4年度の自己点検・自己評価を行った。学校相互評価結果は評価項目について「3. 十分満たしている」と「2. 満たしている」の評価であった。今年度の取り組みは次の4点である。

1. 教育課程：今年度から改正カリキュラムの運用を開始した。強化して取り組んでいる学校独自の臨床推論プログラム、シミュレーション教育、OSCE等を継続的に進めている。またCOVID-19の影響を最小限にし、可能な限り対面授業を実施して教育の質を確保した。実習指導者と連携をとり、前年度から活用している分娩介助のルーブリック評価表を活用して、学生の到達度をパフォーマンスにより客観的、段階的に評価できるようにしている。ピアチェックによる看護技術の自主的な練習への支援を行ったことで、技術力の向上に繋がった。
2. ICTを活用して国立病院機構3校の合同教育システムを構築して活用している。ICTを活用して3校での教材共有や国家試験対策などを行った。今年度は研究授業を実施し、教員相互の学びを得ることができたと同時に国立病院機構所属の助産学科の質の向上につながっている。
3. 対面授業の増加によるデータ保存業務の減少、業務改善チャレンジシートを用いた教務助手や事務助手へタスクシフトにより、超過勤務が減少している。
4. 教員の研究活動：継続的に研究に取り組み、教員は研究発表を行うなどの成果を挙げた。
この評価結果を活かし、さらなる教育の質の確保と教育環境の充実が図れるよう取り組んでいく。

評価項目	評価の視点	項目	R4年度
			自己評価
I 教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているかについて評価します。	6項目	3.0
II 教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒業後教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているかについて評価します。	6項目	2.8
III 教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し計画的に進められているかについて評価します。	26項目	3.0
IV 教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について評価します。	6項目	3.0
V 学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適正であるかと防災対策や個人情報保護について評価します。	9項目	3.0
VI 入学生の受け入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について評価します。	5項目	3.0
VII 学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているかについて評価します。	15項目	3.0
VIII 卒業生の進路	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているかについて評価します。	7項目	3.0
IX 教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について評価します。	4項目	3.0
X 社会への貢献・公開講座	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズをふまえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について評価します。	7項目	2.9
XI 教育環境	施設設備などの学習環境の整備状況について評価します。	7項目	3.0
XII 学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて評価します。	7項目	3.0

評価項目	評価の視点	項目	R4年度
			自己評価
XIII 学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について評価します。	5項目	3.0
全体平均			3.0

令和4年度 助産師養成所自己点検・自己評価結果（助産学科）



令和4年度 学校関係者評価報告書

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的

- 1) 教育に関する知見を有する者、臨地実習施設の関係者、看護管理者経験者、卒業生などの学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。
- 2) 学校関係者との連携協力により、特色のある学校づくりを推進する。

2. 学校関係者評価委員名簿

規程	所属 氏名
教育に関する知見を有する者	京都教育大学 教育学科 教授 相澤 伸幸
臨地実習施設の関係者	京都医療センター 看護部長 福井久美子
看護管理者経験者	洛和会TQM支援センター 部長 伊藤 文代
卒業生（卒後一定のキャリアを持った者）	舞鶴医療センター 副看護部長 橋本 恵

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：令和5年3月13日（月） 15：00～16：30

実施場所：京都医療センター附属京都看護助産学校 会議室

4. 学校関係者評価委員会の議題

- 学校関係者評価の概要について
- 令和4年度 重点目標の取り組み報告（看護学科・助産学科）
- 令和4年度 自己点検・自己評価結果
- 意見交換

5. 総評

1. 患者の権利擁護の学生指導について（看護学科）
 - ・学校間相互評価の中で、患者の権利擁護についての指導が、学年別の実習指導や指導内容が一元化されるとより学生指導に役立つとある。一元化すると京都医療センター附属看護助産学校でPRすべき特徴的な教育内容や教育方法が見えにくくなってしまうことが懸念されるので、学校独自の特徴を可視化していくとよい
2. 近隣関連施設との情報交換について（助産学科）
 - ・近隣地域の連携の中で他校との繋がりも検討されるとよい
3. 学生の確保について
 - ・大学も学生数は減っており、受験者は10～20%減少している。少子化であるためそれらを考えて対処していく必要がある。また、令和5年度の新入生は高校入学時からコロナ禍で、無理をしないように指導を受けた世代である。どこまで指導するのがよいのか考えていく必要がある。
 - ・学生は大学志向であり、実習施設の確保が困難な中、附属の病院を持たない大学で受験倍率が増えている状況がある。要因を捉えて対応するのが望まれる。
 - ・コロナ感染症が落ち着けば積極的に病院や地域との連携を図ることにより、学校の特徴をアピールすることができる。
 - ・京都医療センター附属京都看護助産学校でどのような学生を求めるのか、卒業後にどのような看護師になってほしいのか、明確にするとよい。
4. 学校評価について
 - ・学校間相互評価は、評価者が同じ機構内であり、評価の視点が似通ってしまう。新たな視点から評価を受けることができるように機構外の評価を受けるように検討してはどうか。
5. 働き方改革について
 - ・働き方改革としてタスクシフトに取り組んでいるところはよいと思う。業務中の無駄をなくすことでスリム化ができる。今後は時間管理に着目し教員業務の改善を行っていくことを検討していくのはどうか。チャレンジシートだけでは考えが固まってしまうため、教員の生の声から改善していくとよい。